

<トピックス3>  
米国経済統計ウォッチ

研究員 山田 剛史 (やまだ つよし)

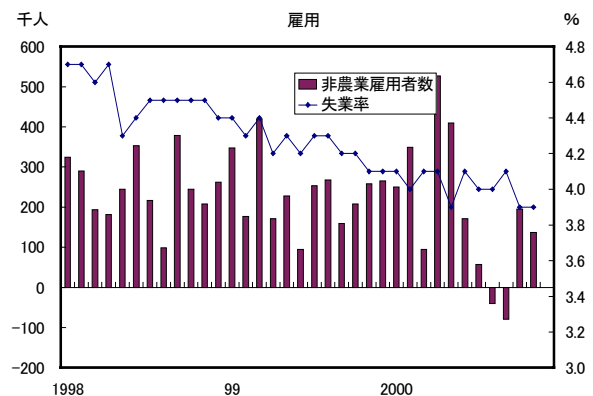
Email: yamada@nli-research.co.jp Tel: (03)3597-8537

米国の7～9月期の実質GDPは前期比年率+2.7%と、市場の予想を下回った。政府支出の減少や在庫調整だけでなく、設備投資の構築物や住宅投資に金融引締め効果が現れている。一方消費は貯蓄率マイナスのもとで伸びを高め、外需も輸出の増加で好転している。

最終需要の減速を受けて、雇用のひっ迫や原油価格の高止まりにもかかわらず、インフレ率は落ち着いている。FRBはソフトランディングシナリオへの信認を強めており、金融政策は現状スタンスの継続が予想される。

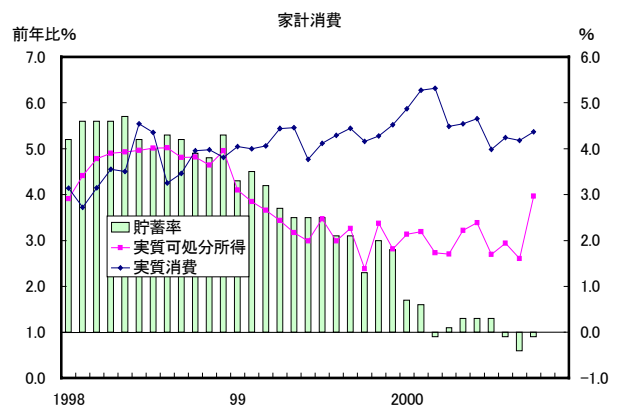
【雇用】

10月の非農業雇用者数は+137千人となり、2ヵ月連続で増加した。ただ増加のペースは昨年と比べ鈍化傾向にある。一方失業率は2ヵ月連続で3.9%となり、過去30年間で最低水準にある。賃金は前月比+0.4%と伸びが高まり、完全雇用下でのひっ迫を反映している。



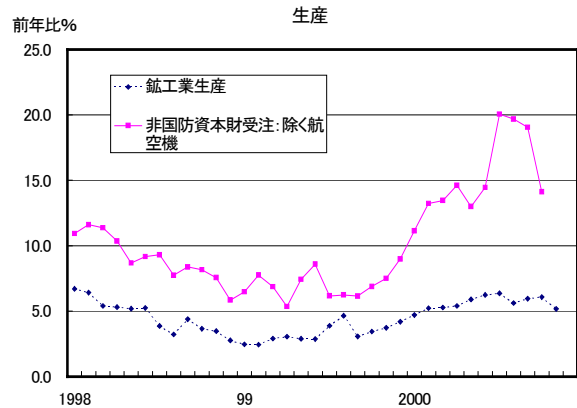
【消費】

9月の貯蓄率は0.1%となり、3ヵ月連続のマイナスになった。可処分所得は補助金交付の特殊要因で前年比+4%と伸びを高めたが、消費が同+5.4%とそれ以上に伸びたため。一方10月の消費者信頼感指数(将来指数)は107.4と低下した。景気減速や原油価格上昇の影響による。



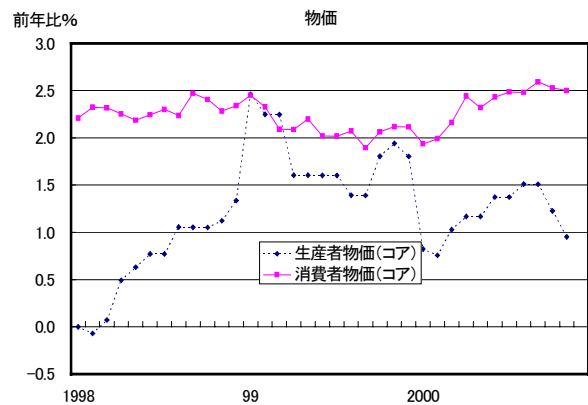
### 【生産】

10月の鉱工業生産は前年比+5.2%で、前月の同+6.1%から伸びが低下した。自動車の生産調整が主因。稼働率は82.1%で高水準が続いている。設備投資の先行指標である非国防資本財受注は9月同+14.1%となり、3ヵ月連続で伸びが鈍化した。企業収益の悪化を含めて、設備投資に減速の兆しがみられる。



### 【物価】

10月の生産者物価は前年比+3.6%、消費者物価は同+3.4%となった。原油価格上昇の影響が最悪期を脱したとの見方が出ている。食料・エネルギーを除くコアインフレ率は、生産者物価が同+1%、消費者物価が同+2.5%となり、伸び率は7月以降鈍化傾向にある。



### 【国際収支】

9月の貿易収支は343億ドルとなり、前月比45億ドルの悪化で、単月で過去最高の赤字となった。年率では4116億ドル。輸出は前年比+12.9%と資本財を中心に増加しているが、輸入が同+18.3%と伸びを高めている。原油価格上昇による石油関連製品の増加が影響している。

